



## 2023年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年2月3日

上場会社名 株式会社 J-オイルミルズ

上場取引所 東

コード番号 2613 URL <https://www.j-oil.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 佐藤 達也

問合せ先責任者 (役職名) 財務部長 (氏名) 内田 敬之

TEL 03-5148-7100

四半期報告書提出予定日 2023年2月3日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	194,680	31.0	353		139		311	79.9
2022年3月期第3四半期	148,570	21.8	192	96.3	557	89.8	1,546	60.4

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 419百万円 ( %) 2022年3月期第3四半期 916百万円 ( 80.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	9.41	
2022年3月期第3四半期	46.91	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	181,368	92,945	51.0
2022年3月期	161,700	94,523	58.2

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 92,530百万円 2022年3月期 94,133百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		25.00		25.00	50.00
2023年3月期		10.00			
2023年3月期(予想)				10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	260,000	29.0	500		1,000	67.6	900	53.9	27.21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 有 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 有 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	33,508,446 株	2022年3月期	33,508,446 株
期末自己株式数	2023年3月期3Q	432,232 株	2022年3月期	436,438 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	33,074,576 株	2022年3月期3Q	32,960,110 株

株主資本において自己株式として計上されている株式給付信託に残存する自社の株式は、期末自己株式数及び期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。当該信託が保有する当社株式の期中平均株式数は、前第3四半期連結累計期間301,080株、当第3四半期連結累計期間265,900株であります。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(会計上の見積りの変更)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、新型コロナウイルス感染症における行動制限の緩和等により社会経済活動に回復の動きが見られました。しかしながら、7月以降の第7波、11月以降の第8波による感染拡大、さらに世界的なインフレの加速に伴う原材料価格やエネルギーコストの高騰に為替相場の円安進行も重なり、依然として景気の先行きは不透明な状況が続いております。このような状況下において、油脂製品の主な原料である大豆や菜種およびパーム油などの購入油も高値水準での推移が続いており、当社は高騰する原料価格に見合った販売価格への改定や成長ドライバーとなる高付加価値品の拡販、継続的なコストダウンを推進いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高1,946億80百万円（前年同四半期比31.0%増）、営業損失3億53百万円（前年同四半期は営業利益1億92百万円）、経常損失1億39百万円（前年同四半期は経常利益5億57百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益3億11百万円（前年同四半期比79.9%減）となりました。

セグメントの概況は、次のとおりであります。

#### (油脂事業)

油脂事業環境につきましては、主原料である大豆相場は、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化や米国産大豆の需給逼迫予想、植物油相場の高騰などから、1ブッシェル当たり17米ドル台後半まで上昇しましたが、その後、米国産地の良好な天候推移や世界的な景気後退懸念の高まりを受け軟調に推移し、9月には1ブッシェル当たり13米ドル台後半まで下落しました。10月以降は中国の需要回復期待やアルゼンチンの乾燥天候懸念などを材料に再び上昇傾向に転じ、12月末には1ブッシェル当たり15米ドル台まで上昇するなど、前年同四半期との比較では高位での推移となりました。菜種相場は、鉱物原油相場や植物油相場の高騰などを受け4月下旬には期近限月で1トン当たり1,200加ドル台まで上昇しましたが、その後はカナダ菜種の生産量回復予想や世界的な景気後退懸念、鉱物原油価格の高値修正を受けて軟調に推移し、7月には1トン当たり800加ドル割れまで下落、その後は700加ドル台後半から900加ドル台前半で推移しました。前年同四半期との比較では第1四半期は高位、第2四半期及び第3四半期は低位での推移となりました。ドル円相場は、米国のインフレ懸念の高まりを受け利上げペースが加速するとの観測が強まる中で、日米の金融政策の方向性の違いから10月に一時150円/1米ドルを超えるなど円安ドル高が進行したものの、政府日銀の為替介入や米国でのインフレ率上昇の一段と経済減速懸念の高まりから12月末には130円/1米ドル付近まで円が買い戻されましたが、前年同四半期との比較では円安水準での推移となりました。

油脂部門につきましては、家庭用の汎用油においては、急激な原料コスト上昇に伴う度重なる価格改定による節約志向の高まりや外食の需要回復等の影響により、販売数量は前年同四半期を大きく下回りましたが、価格改定により売上高は前年同四半期を大きく上回りました。家庭用の高付加価値品においても、オリーブオイル、その他のあらゆる油種において原料コストが大幅に上昇したため、価格改定を実施しました。市場価格の上昇に伴い、オリーブオイルは市場が縮小しており、売上高は前年同四半期をやや下回りました。また、環境負荷の低減やお客様の使いやすさ（含む捨てやすさ）が特長の「スマートグリーンパック<sup>®</sup>」（紙パック製品）のラインナップを拡充し、汎用油から高付加価値品まで幅広いアイテムを展開しました。業務用は、10月以降のインバウンド需要の回復や全国旅行支援など、外食の需要を喚起する動きがあったものの、油脂価格改定に伴うお客様の使用日数延長やプライメニューの削減の影響で需要が減退し、販売数量は前年同四半期をわずかに下回りました。家庭用と同様に、更なる価格改定を実施した結果、売上高は前年同四半期を大きく上回りました。市場価格の上昇に伴い、「長徳<sup>®</sup>」シリーズについてはお客様のコスト負担軽減への貢献と、CFP（Carbon Footprint of Products）認証を軸にした店頭でのコミュニケーション（BtoBtoC）を強化したことが奏功し、販売数量は前年同四半期を大きく上回りました。

油糧部門につきましては、大豆ミールは、搾油量が前年同四半期を大きく上回ったことから、販売数量は前年同四半期を大きく上回りました。販売価格はシカゴ相場の上昇と為替相場の大幅な円安進行により前年同四半期を大きく上回りました。菜種ミールは、搾油量が前年同四半期を大きく下回ったことから、販売数量は前年同四半期を下回りました。販売価格は大豆ミール価格の上昇に連動して前年同四半期を大きく上回りました。

以上の結果、当事業は売上高1,767億41百万円（前年同四半期比35.2%増）、セグメント利益2億23百万円（前年同四半期比24.7%増）となりました。

## (スペシャリティフード事業)

乳系 P B F 部門につきましては、家庭用はマーガリンの主原料であるパーム油や大豆油、菜種油など、原料相場の歴史的な高騰や為替相場の円安進行などを受け、価格改定に注力しましたが、マーガリン市場の縮小の影響や価格改定による反動により販売数量が計画を下回ったことから、売上高は前年同四半期をやや下回りました。また、プラントベースフードに関する消費者への浸透に時間を要しておりますが、VioLifeブランドの拡販に向けて注力しました。2021年9月から関東先行発売のプラントベースチーズ、プラントベースバターについては3月より全国販売をスタートし、6月にはブランド認知度アップのために関東エリアにてテレビCMを実施しました。また秋季新商品としてプラントベースチーズ3商品を発売するとともに、商品ラインナップの見直しを進めました。業務用マーガリンは、家庭用と同様に価格改定を進めたことにより売上高は前年同四半期を上回りましたが、価格改定の実現は想定より遅れました。全国旅行支援の再開をはじめとする人流の回復により、土産菓子、外食等の需要に回復傾向が見られましたが、パンの需要は引き続き低迷しており、お客様の油脂使用量の削減や最終製品の容量減などもあり、販売数量は前年同四半期を下回りました。粉末油脂製品は原料油脂相場の上昇により販売価格が上昇し、売上高は前年同四半期を上回りましたが、販売数量は前年同四半期を下回りました。

食品素材部門につきましては、菓子用途のコーンスターチが好調に推移し、段ボール用途や食品用加工でん粉も堅調に推移しましたが、高値警戒感により飼料用途がやや低調となり、販売数量は前年同四半期をわずかに下回りました。また原料価格などの大幅な上昇に伴い、価格改定を進めたことで、売上高は前年同四半期を上回りました。前年度第2四半期に上市しました業務用スターチ製品の新ブランド「TXdeSIGN<sup>®</sup>(テクスデザイン)」シリーズにつきましては、専用ホームページの設置など、拡販に向けて提案を強化することで、ターゲット顧客に採用が進みました。ビタミンK2は価格改定を実施しましたが、売上高は前年同四半期を下回りました。大豆たん白をベースとしたシート状大豆食品「まめのりさん<sup>®</sup>」の販売は、主要販売先である北米において、コロナ以降、外食需要が回復してきたものの、現地での流通在庫が増加したため出荷が鈍化し、販売数量は前年同四半期を下回りました。また原料価格などの大幅な上昇に伴い、価格改定を進めたことで、売上高は前年同四半期をわずかに上回りました。

以上の結果、当事業は売上高171億72百万円（前年同四半期比6.9%増）、販売価格の改定に努めたものの原料価格の高止まりなどの影響により、セグメント損失6億89百万円（前年同四半期はセグメント損失2億29百万円）となりました。

## (その他)

その他の事業につきましては、売上高7億65百万円（前年同四半期比57.1%減）、セグメント利益1億12百万円（前年同四半期比53.5%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ196億68百万円増加し、1,813億68百万円となりました。主な増加は、受取手形、売掛金及び契約資産が144億59百万円、棚卸資産が55億30百万円、現金及び預金が11億91百万円であります。主な減少は、流動資産その他が16億99百万円、有形固定資産が5億27百万円です。

負債は、前連結会計年度末と比べ212億46百万円増加し、884億23百万円となりました。主な増加は、安定的な運転資金確保のための短期借入金127億円、長期借入金63億90百万円、流動負債その他が21億67百万円、支払手形及び買掛金が16億33百万円です。主な減少は、繰延税金負債が5億55百万円、賞与引当金が4億96百万円です。

純資産は、前連結会計年度末と比べ15億78百万円減少し、929億45百万円となり、自己資本比率は51.0%となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の連結業績予想につきましては、最近の業績動向を踏まえ修正いたしました。詳細につきましては、本日（2023年2月3日）公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,579	4,770
受取手形、売掛金及び契約資産	35,126	49,585
商品及び製品	20,918	27,349
原材料及び貯蔵品	29,979	29,079
その他	4,592	2,893
流動資産合計	94,196	113,677
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	12,193	12,075
機械装置及び運搬具（純額）	17,117	17,330
土地	18,619	18,614
リース資産（純額）	1,465	1,340
建設仮勘定	1,294	771
その他（純額）	811	843
有形固定資産合計	51,502	50,975
無形固定資産	2,667	2,980
投資その他の資産		
投資有価証券	11,461	11,821
退職給付に係る資産	1,114	1,233
繰延税金資産	182	145
その他	658	621
貸倒引当金	△121	△118
投資その他の資産合計	13,295	13,702
固定資産合計	67,466	67,658
繰延資産	37	32
資産合計	161,700	181,368

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,057	18,691
短期借入金	12,300	25,000
1年内返済予定の長期借入金	490	—
未払法人税等	210	70
未払消費税等	26	190
賞与引当金	925	428
役員賞与引当金	—	6
役員株式給付引当金	11	—
その他	9,727	11,895
流動負債合計	40,748	56,282
固定負債		
社債	12,000	12,000
長期借入金	5,850	12,240
リース債務	1,256	1,132
繰延税金負債	1,600	1,045
役員株式給付引当金	38	100
環境対策引当金	70	67
退職給付に係る負債	3,340	3,339
長期預り敷金保証金	2,128	2,143
その他	143	71
固定負債合計	26,427	32,140
負債合計	67,176	88,423
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	31,633	31,633
利益剰余金	49,137	48,281
自己株式	△812	△804
株主資本合計	89,958	89,111
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,543	3,799
繰延ヘッジ損益	369	△760
為替換算調整勘定	230	323
退職給付に係る調整累計額	31	56
その他の包括利益累計額合計	4,175	3,418
非支配株主持分	390	415
純資産合計	94,523	92,945
負債純資産合計	161,700	181,368

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	148,570	194,680
売上原価	128,475	174,565
売上総利益	20,094	20,115
販売費及び一般管理費	19,902	20,468
営業利益又は営業損失(△)	192	△353
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	157	168
持分法による投資利益	268	137
受取賃貸料	35	18
雑収入	65	131
営業外収益合計	527	456
営業外費用		
支払利息	68	108
支払手数料	30	101
減価償却費	19	—
雑支出	43	32
営業外費用合計	162	242
経常利益又は経常損失(△)	557	△139
特別利益		
固定資産売却益	560	468
投資有価証券売却益	965	162
関係会社株式売却益	601	—
受取損害賠償金	—	102
資産除去債務戻入益	385	—
特別利益合計	2,511	732
特別損失		
固定資産売却損	—	0
固定資産除却損	178	203
減損損失	695	—
投資有価証券評価損	—	0
リース解約損	0	0
災害による損失	—	80
損害賠償金	34	—
特別損失合計	908	284
税金等調整前四半期純利益	2,160	308
法人税、住民税及び事業税	615	121
法人税等調整額	6	△136
法人税等合計	621	△15
四半期純利益	1,539	324
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△7	12
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,546	311



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	1,539	324
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△774	249
繰延ヘッジ損益	38	△1,130
為替換算調整勘定	27	37
退職給付に係る調整額	20	25
持分法適用会社に対する持分相当額	65	74
その他の包括利益合計	△623	△743
四半期包括利益	916	△419
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	915	△444
非支配株主に係る四半期包括利益	0	24

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(会計上の見積りの変更)

(棚卸資産の評価)

当社グループは、近年過去にない原料相場高騰の継続や原油油分の低下、エネルギーコストおよび物流費の上昇、並びに日米金利差に伴う為替相場の円安基調などの外部環境の変化に対して、昨年来、販売価格の改定を継続的に実施しており、短期間で棚卸資産の正味売却価額が著しく変動している状況にあります。

かかる環境変化を踏まえ、より最新の情報を反映すべく、第1四半期連結会計期間より、棚卸資産のうち原材料について、正味売却価額の見積方法を過去の販売単価実績から決算日時点の見込販売単価に基づく方法に変更しております。また、決算日時点の生産見込数量の算定に使用する歩留率について、前年度実績値から決算日以前の直近3ヵ月実績値を基礎として算定する方法に変更しております。当該見積方法の変更は、棚卸資産の収益性の低下の事実をより適切に財政状態及び経営成績に反映させることを目的としたものであります。

以上の見積方法の変更により、当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1、2)	合計	調整額	四半期連 結損益計 算書計上 額(注3)
	油脂事業	スペシヤリ ティフード 事業	計				
売上高							
家庭用油脂	20,230	—	20,230	—	20,230	—	20,230
業務用油脂	67,648	—	67,648	—	67,648	—	67,648
ミール類	42,837	—	42,837	—	42,837	—	42,837
乳系PBF	—	9,716	9,716	—	9,716	—	9,716
食品素材	—	6,350	6,350	—	6,350	—	6,350
その他	—	—	—	1,786	1,786	—	1,786
顧客との契約から生じる 収益	130,716	16,067	146,783	1,786	148,570	—	148,570
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	130,716	16,067	146,783	1,786	148,570	—	148,570
セグメント間の内部売上 高又は振替高	1,572	394	1,967	7	1,975	△1,975	—
計	132,289	16,462	148,751	1,794	150,545	△1,975	148,570
セグメント利益又は 損失(△)	179	△229	△50	243	192	—	192

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ケミカル事業及び不動産賃貸等の各種サービス等が含まれております。

2 第1四半期連結会計期間においてケミカル事業を構成していた株式会社J-ケミカルの株式を譲渡し、連結の範囲から除外しております。本譲渡に伴い、第2四半期連結会計期間以後の数値に変動がないため、ケミカル事業を報告セグメントから除外し第1四半期連結会計期間より「その他」の区分に含めております。なお、ケミカル事業については、第1四半期連結累計期間において、外部顧客への売上高973百万円、セグメント間の内部売上高又は振替高7百万円、並びにセグメント利益100百万円をそれぞれ計上しております。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「油脂事業」セグメントにおいて、国内の生産体制を一部変更し生産機能の最適化に伴い、当該資産について帳簿価額を回収可能価額まで減額し減損損失を計上いたしました。また売却予定の土地の帳簿価額について、売却見込額を反映した回収可能価額まで減額し減損損失を計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては292百万円であります。

「スペシヤリティフード事業」セグメントにおいて、油脂加工品事業(2022年4月より乳系PBFに区分表示を変更)の採算悪化に伴い、当該資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し減損損失を計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては403百万円であります。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額	四半期連 結損益計 算書計上 額(注3)
	油脂事業	スペシヤリ ティフード 事業	計				
売上高							
家庭用油脂	21,809	—	21,809	—	21,809	—	21,809
業務用油脂	94,659	—	94,659	—	94,659	—	94,659
ミール類	60,272	—	60,272	—	60,272	—	60,272
乳系PBF	—	10,325	10,325	—	10,325	—	10,325
食品素材	—	6,847	6,847	—	6,847	—	6,847
その他	—	—	—	765	765	—	765
顧客との契約から生じる 収益	176,741	17,172	193,914	765	194,680	—	194,680
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	176,741	17,172	193,914	765	194,680	—	194,680
セグメント間の内部売上 高又は振替高	2,166	725	2,892	—	2,892	△2,892	—
計	178,908	17,898	196,807	765	197,573	△2,892	194,680
セグメント利益又は 損失(△)	223	△689	△466	112	△353	—	△353

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸等の各種サービス等が含まれております。

2 前連結会計年度まで掲記していた「油脂加工品」については、第1四半期連結会計期間より「乳系PBF」に区分表示を変更しております。また、「テクスチャーデザイン」及び「ファイン」については、第1四半期連結会計期間より「食品素材」に集約して掲記しております。なお、これらの区分表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間の「油脂加工品」「テクスチャーデザイン」「ファイン」の組替えを行っております。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当する事項はありません。